

【方針2】 学びを楽しみ、輝く子どもの姿を実現する学校教育

【施策の柱1】 豊かな心の育成

施策名	① 個性を尊重する人間関係づくり					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 33
	B	B	B			
◆取組実績（成果と課題） ・学校訪問や研修会等で、子どもの自主的、実践的、道徳的な態度を育てることや自己肯定感を高めることができる特別活動、内面に根差した豊かな体験を通して心を動かす道徳の充実を図るよう働きかけた。 ・生徒指導上の諸問題に対して、教職員、スクールソーシャルワーカー（SSW*）、スクールカウンセラー（SC*）、関係機関が連携して、チームとして解決を図った。 ・いじめの未然防止に向けた学校体制の強化やいじめの定義の周知徹底、いじめ問題への対応において、被害児童生徒に寄り添い、学校全体でチームとして対応する生徒指導体制の構築を一層推進することが求められる。						
◆次年度への展望 ・学校の教育活動全体を通して、子どもの行動の意味や心情を肯定的にとらえ、その子の良さや可能性を引き出すとする「子ども理解」を深め、一人一人に寄り添った指導が実践できるように、学校訪問や研修会等で働き掛ける。 ・富士第二小学校に設置される校内教育支援センター*（（仮称）ほっとルーム）において、自己肯定感が低下している児童生徒一人一人に応じた相談支援について、その効果を検証していく。 ・SSW、SC、生徒指導アドバイザー*の研修を充実させ、関係機関との連携を図り、生徒指導上の諸問題に対して、組織的かつ迅速に対応できる体制の構築をより一層確立する。						
◆指標 「自分には良いところがあると思う」に「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した子どもの割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	小 85% 中 80%	小 85% 中 80%	小 85% 中 80%	小 85% 中 85%	小 90% ↑中 85%
	実 績	小 79.2% 中 76.1%	小 82.2% 中 75.5%	小 81.8% 中 80.6%		

施策名	② 人権感覚の醸成と道徳的実践力の育成					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 34
	B	B	B			
◆取組実績（成果と課題）						
・研修会等で、子どもが道徳的な問題を自分ごととして捉え、議論し、探究することができるような「考え、議論する道徳」の授業の在り方について協議を行い、授業実践を積み重ねた。 ・学校生活全ての場面においてウェルビーイングの向上が求められている。子どもにとって本当に必要なことか、幸せや生きがいを感じられるかを考えて教育課程の見直しを行うことが必要である。						
◆次年度への展望						
・道徳科においては、教科書会社が変更される学年があるため、学校において年間計画や道徳と各教科の関連を示した表を作成し、校内研修で活用するなどして、道徳的価値の理解や道徳的な実践意欲と態度が育つ「考え、議論する道徳」を推進していく。 ・情報モラルについて、小学校低学年から発達段階に応じた指導を充実させるとともに、保護者とも連携を図ることで、更なる人権感覚の向上を目指す。 ・「富士市子どもの権利条例*」について、子どもの命が守られ、自分らしく生き、成長し、発達していくことができるような体制を市こども未来課と連携して構築していく。						
◆指標 「人が困っているときは、進んで 助けている」に「当てはまる」「ど ちらかといえば当てはまる」と回答 した子どもの割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	小 90% 中 90%	小 90% 中 90%	小 92% 中 88%	小 95% 中 92%	小 100% 中 100%
	実 績	小 88.7% 中 80.0%	小 90.9% 中 84.9%	小 93.5% 中 89.6%		

〔施策の柱2〕 確かな学力の向上

施策名	① 主体的に学びに向かう力の育成					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 36
	B	B	B			
◆取組実績（成果と課題）						
・「指導の重点」における目指す子ども像「学びを創る子 未来を拓く子」の具現に向け、指導主事による全小中学校対象の学校訪問で、授業づくりの視点等について指導し、子ども主体の授業の理念が浸透してきた。						
・吉原北中学校が、「通常学級に在籍する特別な支援を要する生徒に対する効果的な指導の在り方」について研究成果を報告することで、市内の教員がユニバーサルデザインの視点からの支援等について理解を深めることができた。						
・児童生徒の資質・能力の育成に繋がるよう、教材研究や ICT の活用等、教師の指導力向上についてさらに研究を推進する必要がある。						
◆次年度への展望						
・指導主事による学校訪問、研修主任研修会等を通じて、資質・能力の育成を目指した授業改善を推進する。						
・鷹岡小学校、岳陽中学校で研究を進めている学習指導に関する研究について、研究成果を市内に発信する。						
・県の指定を受けた青葉台小学校において『「未来を切り拓く人材の育成と社会を生き抜く力を育む教育の実現」の実現に向けた授業づくり等』の研究を進める。						
・「自立した学び手の育成」について、吉原小学校及び吉原第三中学校を研究指定校とし、研究を進める。						
◆指標 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	小 80% 中 75%	小 80% 中 80%	小 85% 中 85%		小 90% ↑ 中 85%
	実 績	小 77.5% 中 78.1%	小 79.9% 中 77.2%	令和 6 年度に全国学力・学習状況調査質問項目から外れた。		
◆指標 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると思う」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	—	—	—	小 88% 中 88%	小 90% 中 90%
	実 績	—	—	小 84.0% 中 85.9%		

施策名	② 習得、活用、探究による学びの深化					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 37
	B	B	B			
◆取組実績（成果と課題）						
・習得・活用・探究という学びの過程の中で ICT を効果的に活用し、「深い学び」を実現できるよう、学校訪問を通して指導・助言を行った。 ・指導の重点を作成し、目指す子ども像や授業の在り方等について動画でも配信し視点を示した。これを基にして、学校訪問の中で授業改善について指導・助言を行った。 ・特別な支援を要する児童生徒に対する効果的な指導の在り方や、滑らかな園小接続が必要なことが、吉原北中学校と富士川第一小学校が研究指定校として成果発表会により、市内の教員の理解を深めることができた。						
◆次年度への展望						
・吉原小学校、吉原第三中学校を授業改善の研究指定校とし、自分に合った学び方が身に付いた、自立した学習者を育成するための研究を進める。特に、「子どもたちが計画を立て、自分に合った方法を選択して学習に取り組む」「自分の学びを振り返り、自己調整する」ことができる子ども主体の授業の在り方について研究を進める。 ・指導主事による学校訪問を通し、「授業づくりの重点」に定めた３つの視点を基に、授業改善に向けた指導助言を行い、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善を推進する。						
◆指標 「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした」に「よく行った」と回答した学校の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	小 30% 中 45%	小 30% 中 45%	小 40% 中 45%	小 40% 中 45%	小 50% 中 60%
	実 績	小 25.9% 中 37.5%	小 34.6% 中 25.0%	小 34.6% 中 20.0%		

〔施策の柱3〕 健やかな体づくり

施策名	① 生活習慣を整えられる子どもの育成					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 39
	B	B	B			
◆取組実績（成果と課題） - 基本的な生活習慣や心身の健康を維持し、向上させるための取組を行った。 - 基本的な生活習慣の確立や心身の健康保持増進のためには、継続した指導や個別指導が必要である。 - 各種健康診断結果を活用して課題となる事項を見出し、解決に向けて取り組んだ。 - 学校保健委員会等を活用し、家庭や地域、学校医などの関係機関と連携した取組を推進した。 - 子どもたちが栄養バランスのとれた食事の大切さを認識できるよう、食に関する指導を行った。 - 地産地消の取組等を授業に取り込むことで、食への興味・関心を高め、望ましい食習慣を学べるよう、学校と家庭、地域との連携をさらに図る必要がある。 「学校生活アレルギーマニュアル」を活用し、アレルギー疾患の子どもへの対応を学校全体で行った。						
◆次年度への展望 - 基本的な生活習慣や心身の健康の保持増進について、科学的根拠に基づいた指導を実施することで指導の充実を図る。 - 児童生徒の健康課題について、中学校区、家庭や地域、学校医などの関係機関と連携し、解決に向けて引き続き指導をしていく。						
◆指標 毎日、同じくらいの時刻に寝ていると答えた子どもの割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	小 80% 中 76%	小 84% 中 78%	小 84% 中 78%	小 84% 中 79.5%	小 85% 中 80%
	実 績	小 82.3% 中 76.0%	小 80.4% 中 73.4%	小 82.5% 中 79.0%		

施策名	② スポーツを楽しむ子どもの育成					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 40
	B	B	B			
◆取組実績（成果と課題）						
・「富士市小中学校熱中症予防対策ガイドライン」、「プール安全管理の手引き」、「体育（保健体育）科授業における安全管理、安全指導の留意点」等を全小中学校に周知し、安全な体育科授業の推進を図った。						
・外部人材やプロスポーツ選手を招聘し、専門的な学習の場を設けることで、子どもの運動に対する動機を高めることができた。						
・部活動指導員*の配置について、効果的な配置を検討し、9人を任用した。また、部活動指導員の研修会を開催し、指導員の資質・能力の向上を図った。						
・小・中学校ともに体力が回復傾向にあるが、コロナ禍以前の水準には戻っていない。						
◆次年度への展望						
・体を動かすことの楽しさを実感できるよう科学的な視点を取り入れた授業や保健分野の学習との関連を意識した授業など、体育科の授業を改善し、心と体のバランスを保てるようにする。						
・体力づくりに取り組む県主催事業への参加を市内の小学校に推奨し、仲間と関わりながら目標に向けて協力する楽しさや達成した喜びを実感させるなど、運動に意欲的に関わる機会の提供に努める。						
・理学療法士、プロスポーツ選手など外部講師を積極的に招聘し、子どもが運動の魅力を体感できる機会を設定していく。						
・「部活動地域連携・地域移行」等、子どもにとって持続可能な望ましい部活動の在り方を検討していく。						
◆指標 「運動やスポーツをすることが好きか」に「好き」「やや好き」と回答した子どもの割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	小 95% 中 90%	小 95% 中 90%	小 95% 中 90%	小 95% 中 95%	小 95% 中 95%
	実 績	小 88.6% 中 80.4%	小 89.2% 中 80.4%	小 90.8% 中 82.6%		

施策名	③ 自ら命と体を守るための安全教育の充実					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 41
	B	B	B			
◆取組実績（成果と課題）						
・市内小中学校において、警察や市関係課職員、交通指導員等を招いて「交通安全リーダー*と語る会」を実施した。通学路における交通安全・防犯上の危険箇所をまとめ、発表するなど、子どもが主体的に課題を見つけ、解決に向けて取り組む姿が見られた。 ・火災や地震、津波等、地域の実態に即し避難訓練を各校で実施した。富士山噴火等の災害発生時の避難体制についても、学校防災教育会議を中心に検討し、学校と保護者、地域が、より現実的な場面を想定した取組を推進した。 ・交通安全協会やトラック協会による自転車乗り方教室、交通安全教室等を開催し、歩行者及び自転車の利用者として道路及び交通の状況に応じて、危険を予測し、回避する能力を高めた。 ・市内小学校において、警察や防犯協会、民間警備会社等と連携し、体験型の防犯教室の開催や不審者に対する実践的な対応方法を学ぶ場を設定することで、自分の命を守るための具体的な行動を実体験を通して学んだ。						
◆次年度への展望						
・子どもが自ら安全に行動する意識を高め、他者や社会の安全に貢献できる自助・共助の精神を醸成する。 ・「危機管理マニュアル」の見直しと教職員への周知を徹底し、学校管理下における富士山噴火等の災害発生時の初期対応体制を構築する。 ・子どもの発達段階を考慮し、地域の実情に合わせた体験的、実践的な安全教育を推進する。 ・地域防災への参加を促し、地域防災の担い手となる児童生徒を育成する。						
◆指標 「緊急時に自分の命を守るために適切な判断をとることができる」と回答した児童生徒の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	小 60% 中 70%	小 100% 中 95%	小 100% 中 95%	小 100% 中 95%	↑ 小 100% ↑ 中 100%
	実 績	小 94.0% 中 88.4%	小 94.7% 中 88.5%	小 94.6% 中 88.0%		

〔施策の柱4〕 頼もしい教職員の育成

施策名	① 教職員の資質・能力の向上					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 43
	B★	B★	B★			
◆取組実績（成果と課題）						
- 指導の重点を、年度初めの研修主任者会で説明するとともに、動画を作成し、研修主任が校内で周知しやすいようにした。これにより、学校訪問では、訪問校の教職員や児童生徒の実態に即した事後指導とすることができた。 - 吉原北中学校が特別支援教育、富士川第一小学校が園小連携をテーマに、市の指定校として研究成果を発表した。教職員の、児童生徒への支援の仕方に成果がみられる発表であった。 - 教職員の自主的な研修の場として、令和6年度に夏季希望研修を3講座新設し、「授業づくり」に66人、「生徒指導」に79人、「特別支援」に127人の参加があった。アフター5講座は、44回開催し、延べ1,617人の参加があった。						
◆次年度への展望						
- 令和7年度から指導の重点を「授業づくりの重点」とした。研修主任者会や学校訪問等でこれを活用し、「個別最適な学びと協働的な学び」の実現に向けて取り組む。 - 市の施策の柱でもある小中一貫教育とコミュニティ・スクールの推進のため、学校訪問や研修を利用し、コミュニティ・スクールの理解を深めていく。						
◆指標 「安心して子どもを任せられる学校である」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した保護者の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	80%	95%	100%	100%	100%
	実 績	小96.4% 中93.1%	小96.0% 中94.5%	小96.1% 中93.5%		

施策名	② 学び続ける機会の充実					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 44
	B	B★	B			
◆取組実績（成果と課題）						
・意欲ある教職員が参加できる自主研修の場として、学習指導、生徒指導、特別支援についての、夏季希望研修を新設した。さらなる参加者の増加を目指したい。						
・任期付や臨時的任用の研修を研修センターで一本化し、研修の枠組みを工夫するとともに、集合研修における講義内容と個別訪問をつなげ、より実践的な内容に変更した。						
・特別支援学級担任者研修については、これまで県主催と推進会主催のみの研修であったが、市主催の研修を新設した。						
◆次年度への展望						
・年代別研修、夏季希望研修、アフター5講座については、全国教員研修プラットフォーム（Plant）を活用する。						
・年代別研修のうち、50歳対象のマイスター研修は県主催の研修が充実してきたため、市主催の研修は終了する。3年目とミドルリーダー研修は、学習指導に主軸を置いた内容とし、教員の授業力の向上を図る。						
◆指標 「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている」に「よくしている」と回答した学校の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	小65% 中60%	小90% 中75%	—	—	小80% 中75%
	実 績	小85% 中69%	令和5年度に全国学力・学習状況調査質問項目から外れた。			
◆指標 「授業研究や事例研修等、実践的な研修を行っていますか」に「よくしている」と回答した学校の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	—	小45% 中70%	小70% 中85%	小75% 中85%	小100% 中100%
	実 績	小37% 中68.8%	小61.5% 中81.3%	小53.8% 中53.3%		

施策名	③ 効果的な教育活動のための働き方改革の推進					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 45
	B★	B	B			
◆取組実績（成果と課題）						
・勤怠管理システム*で教職員の勤務時間を客観的に測定し、時間外勤務時間の管理が確実にできている。						
・令和6年度の時間外勤務時間平均は職1人につき月間約 32 時間であり、「富士市立小中学校教育職員の業務量の管理等に関する規則」に示す上限の原則月 45 時間以内ではあるが、年 360 時間の月平均 30 時間は上回っている。						
・教頭及び主幹教諭・教務主任の時間外勤務時間が他の職種より多いことは課題である。						
・共同学校事務室*における集中処理する共同体制により、教員の担っている役割の一部を事務が担うことで、教員の多忙化解消につながっている。						
・教職員のストレスチェックを活用し、メンタルヘルスの推進に努めた。						
◆次年度への展望						
・学校における調査を教育委員会が精選し、教頭及び主幹教諭・教務主任の業務の縮減を図る。						
・共同学校事務室の業務を見直すことにより、事務職員の働き方改革も推進していく。						
・生徒指導や保護者対応などについては、教育委員会と学校が連携をし、より良い方策を考えていく。						
◆指標 「業務改善が進められているか」 に「充分進んでいる」と回答した学校 の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	50%	80%	80%	85%	↑95%
	実 績	75%	72%	76.7%		

〔施策の柱5〕 未来を切り拓く生徒を育成する市立高校

施策名	① 探究*する精神と姿勢を育む教育活動の推進						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 47	
	B	A	A				
◆取組実績（成果と課題）							
・高校3年間の5単元で構成する「究タイム*」では、AIを取り入れた教材やプレゼンテーション力を鍛える教材などを活用し探究学習の充実を図った。 ・総合探究科1年生の集中研修「研究実践」においてソフトバンク社及びグループ企業への企業訪問を実施し、ITが活用されたオフィスや働き方を見学を行った。 ・「究タイム」における「市役所プラン*」やビジネス探究科の授業では、市役所、企業や団体の方々の協力のもと、生徒により行政課題に対する解決策や地域資源を活用した新しいビジネスなどの提案を行うことができた。 ・「探究フェスタ」などのイベントやオープンスクールにおいて、探究学習の成果を発表することができた。 ・アジア圏を研修地とした海外探究研修を行うことができた。（総合探究科：マレーシア、ビジネス探究科：シンガポール、スポーツ探究科：香港）							
◆次年度への展望							
・全ての生徒が3年間を通して、探究的な力やチームで協働する姿勢を身に付ける課題解決型学習「究タイム」を学ぶ。 ・各学科や教科の学習の中に、探究を意識した主体的・対話的で深い学びを実践する。 ・AI、オンラインやICTを効果的に活用した授業改善を進める。 ・アジア圏を研修地として海外探究研修を実施する。							
◆指標 「探究学習で学んだことは、普段の自分の生活や将来に役立つと思う」と答えた生徒の割合			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標		87%	88%	95%	95%	95%
	実 績		84.9%	95.2%	93.0%		

施策名	② 生徒の夢実現への支援と充実						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 48	
	A	A	A				
◆取組実績（成果と課題） ・生徒の自己肯定感を高め、夢の実現に向けた一歩を踏み出す機会として元静岡朝日テレビアナウンサーで、静岡県議会議員の遠藤行洋氏の講演会を開催した。 ・1年生の土曜学習*において、常葉大学吉田哲也教授や卒業生を招いて進路啓発や学校生活に関する講演会・個別相談会を開催した。 ・3年生に個別の進路実現に向けた個別指導を実施した。 ・1年生対象の職業人講話や2年生対象の大学模擬授業など、学年別の進路行事を実施した。 ・陸上競技部、チアリーダー部が全国大会に出場した。							
◆次年度への展望 ・広く社会で活躍されている方を講師に招きキャリア講演会を実施する。 ・1年次の職業人講話、2年次の大学・学部研究、3年次の進路個別指導など学年に応じたキャリア教育を行う。 ・1年次の土曜学習において、有識者や卒業生を招いて進路啓発につながる講演や講座を開催する。 ・全学科における英語資格・検定試験やビジネス探究科における全商検定など資格取得を支援する。 ・屋外運動場人工芝の改修など、授業や部活動、地域との交流事業を安全に実施できる施設・設備を整備する。							
◆指標 自分の思い描いていた進路を実現できたと回答した生徒の割合			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標		70%	90%	95%	95%	↑95%
	実 績		92.4%	96.4%	94.9%		

施策名	③ 地域ネットワークを活用した教育活動及び学校運営の推進						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 49	
	B	A	A				
◆取組実績（成果と課題） ・学校運営協議会を年3回開催し、学校経営計画書の承認、学校経営報告書の外部評価等を受けた。 ・地域の企業や大学の協力を得て、授業や学校行事を実施した。 ・地域団体や市役所、企業などからの依頼を受けて、吹奏楽部やチアリーダー部、ビジネス部、総合カルチャー部（JRC）など11部活及び有志生徒がイベントやボランティア活動に参加した。 ・未就学児を対象とした「人工芝で遊ぼう」や聴覚に障害のある子どもたちにスポーツに親しむ機会を提供する「Def キッズサッカー教室」をはじめとした地域交流事業に延べ1,897人の生徒が参加した。 ・「くふうハヤテベンチャーズ静岡」や「ベルテックス静岡」などのプロスポーツチームとの連携事業を行うことができた。							
◆次年度への展望 ・2年生が地域の魅力と課題を見つけ地域の方と高校生ができることを企画・提案する「市役所プラン」を行う。 ・ビジネス探究科において、高校生の視点ならではの新しい地域資源を活用した新しいビジネスの提案をしたり、サマーインターンシップや課題研究において、市内事業所と連携した学習活動を行う。 ・保護者や地域住民の声を反映した学校づくりをするために、学校運営協議会を開催する。 ・「高校 De English」、「人工芝で遊ぼう」「多世代交流サッカー」や「Def キッズサッカー教室」など、ボランティア生徒が参画し、学校施設を活用した地域交流事業を行う。 ・学校運営協議会の意見や助言を学校運営に反映しながら地域と連携した教育活動を推進する。							
◆指標 地域社会や大学、行政、企業等と連携して実施した授業や学校行事数			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標		16 件	20 件	25 件	30 件	↑30 件
	実 績		17 件	25 件	30 件		